

第 2 回江田島市環境審議会 要点録

◎概要

日 時	令和 3 年 10 月 28 日(木) 10 時 30 分～12 時 00 分				
場 所	能美市民センター 1 階 多目的室				
委 員 (敬称略)	団体名	役職等	氏名	出席	備考
	江田島市公衆衛生推進協議会	会長	沖井 遵文	○	会長 副会長
	江田島市自治会連合会	監事	伊勢木 武	○	
	江田島市商工会	会長	平田 圭司	○	
	江田島市農業委員会	会長	小原 正清	○	
	江田島市女性会連合会	会長	宇根 民子	○	
	江田島市 PTA 連合会	会長	山下 正夫	○	
	江田島市漁業振興協議会	会長	久保河内鎮孝	○	
	江田島市観光協会	事務局次長	岸 雅基	○	
	江田島市污水施設維持管理組合	代表理事	清水 義昭	—	
	一般社団法人フウド	代表理事	後藤 峻	○	
	永田川カエル倶楽部	会員	藤原 陽子	○	
	広島修道大学人間環境学部	教授	羅 星仁	○	
	広島県西部厚生環境事務所	参事	上堀 慎也	○	
大柿自然環境体験学習交流館	館長	西原 直久	○		
江田島市市民生活部	部長	江郷 壱行	○		
事務局	江田島市地域支援課	課長 課長補佐 係長 主任	猪垣 英治 才野 勲 本家 元且 木多 淳二	○ ○ ○ ○	
コンサル	(株)ジャパンインターナショナル 総合研究所	まちづくり プランナー	國田 明彦 永野 侑	○ ○	
会議内容	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議題 第2次江田島市環境基本計画(素案)について 資料1, 資料2, 資料により説明</p> <p>委員 前回の計画が策定されて 10 年が経った。その中で重点プロジェクトの振り返りを、どの程度この基本計画に入れたのか。基本計画を策定した後、市の取組として地域の中でどのような成果があり、どのような状況だったのかを踏まえて、第 2 次基本計画となる。どの程度、今回の第2次基本計画の中にふれられているのか。</p> <p>事務局 資料2の 11 ページに、これまでの取組と評価について現行計画で指標として示されたものに対して、数値的な評価を行っている。これを踏まえて今回の指標が、これで良いのかというご指摘も踏まえた上で、基本目標ごとに新たな指標を入れている。今回の指標が相応しいかどうか、また数字が取れるかどうかについては、検討をしている。</p> <p>次に、22 ページに前回の計画・アンケート結果を踏まえ、現行計画の基本目標ごとにまとめている。ここでできていることできていないことを整理し、今回の計画では重</p>				

点を大きく3つに絞っている。

また、アンケート等の結果も踏まえて指標にしたほうがよいと考えて、入れているものもある。

新たな施策方針として、現状と課題の中で振り返りについても記載しているところもある。

他にも、耕作放棄地の話や、移住・定住につなげたほうが良いといった話を前回の審議会の中でいただいた。それについて、例えば 45 ページの優れた自然環境の保全の中で、耕作放棄地の管理を施策内容の中に盛り込んでいる。

それから、60 ページの生活環境の保全について、施策としては、移住・定住は触れずづらいが、現状と課題の中で、環境の維持により、観光、移住・定住にもつながるということに記載するなど、皆さんの意見を踏まえて素案を作っている。

委員

過去のことを踏まえてアンケートも取られており、それを踏まえてこの計画を立てられているということで、次にまたつながると思う。

もう一つ、環境という言葉について、基本計画の中で 10 年前もそうであるが、今回でいえば、6 ページに、自然環境、生活環境、快適環境、教育・活動環境と大きく環境の種類を位置付けている。

環境という言葉が皆さんの持つイメージとして色々ある。どちらかという環境が痛んでいるという意味合いで、環境をみる方が非常に多い。実際、そういうこともあるが、私の場合、自然体験活動をしたり、自然の在りようを伝えるなど生物多様性のことを扱っている人間なので、自然ってこんなに豊かなんだという話も一方でしている。

特に小学生について、アンケート数が、少ないということではあるが、子供たちに問う時に、環境という言葉を使った時に、何を意味するのかということを確認したほうがよいいつも思っている。

学校教育の場で、環境を扱うものという、国語や社会科など環境問題で起きている内容が多い。自然の豊かさでいうと、理科や総合的な学習の時間で各地域に出て地域で学習している。そういったことが、アンケートの中にあるだろうかということだった時に、自分の住んでいる地域の自然について学んだことがあるかどうか。そういった内容が、あると各学校も取り組んでいるのでアンケートの回収も上がるのではないかと思う。

これが環境について、どうかと問われると環境が何を意味するのかということを持っている子供もいるのかなと思う。環境という言葉が一般市民の方も含めてわかりやすい言葉だからこそのいろんな意味を持つので改めて何か定義など、こういう意味合いでということを考えてもらえたらと思う。

これは質問ではなく、環境という言葉のイメージについて、それぞれの立場で自然環境にかかわると思う。それが環境の改善なのか、保全なのか、管理なのか、維持なのか、というところにつながってくるので、環境基本計画なので環境という言葉が持つ意味を共有できるかと思う。

会長

環境の定義の話であったと思う。今回は教育・活動環境を新しく入れるという計画になっている。特に環境は自然環境だけではない。地域教育にしても、学校教育にしても、環境についての認識を深めるということの大切さを教えていく必要がある。その辺りを踏まえた形で計画を考えていただけたらと思う。

委員

1 ページの計画策定の趣旨の最後段落について、前回に比べると重点プロジェクトが入っているので、生物多様性の保全への対応や気候変動への適応とう表現よりは本文の重点プロジェクトに対応するような文言に修正したほうがよいと思う。

第2節のところ、SDGs 持続可能な開発目標ですが、ここは日本国内がどのよう

な対策をしているのか、さらに江田島市はどう対応しているのかという文言が入るといいと思う。

2ページの海洋プラスチック問題についても、レジ袋に有料化などが買いてあるりますが、レジ袋については、日本において海洋プラスチックとそこまで深く結びついていないので、それよりは日本の国内の取組、あるいは江田島市の取組、牡蠣の取組などを文章として入れたほうがよいと思う。

3ページの地球温暖化対策・低炭素社会について、COP26の結果というものは、石炭などはかなり大きな動きがあると思うが、それを踏まえた文章に修正していただけたらと思う。

5, 6 ページで、地球環境、自然環境、生活環境、快適環境、教育・活動環境とあり、かなり広く、すべてを含むという形にしているが、特に教育・活動環境に経済活動を入れてしまうと、これをどうするか、すべてを扱うことはできないので、ここに経済活動を入れるかどうかは、もう少し慎重に文章を考えたほうがよいと思う。

7 ページからの江田島市の統計について、ここについても重点プロジェクトに関連する統計があれば、それを踏まえた方がよいと思う。

第2章、11 ページのところ、取組と評価について、4つの基準で評価されている。基本目標の2と3については、数値目標があつてそれを達成しているかどうかということですが、統計が平成 30 年だったり、令和3年だったりしているのは統計がないということ。統計について、最新データがあれば、最新データを入れたほうがよい。

×と○については、未達成で達成できていないので、これは続けていかなければならないと思う。過去 10 年間の重点計画だったものが、達成できていないということなので、次の 10 年計画でも、これは入れないといけないと思う。これをどこに入れるかはまた議論の余地はあると思う。

それと前にも話したが、過去 10 年間1回もチェックが働いていない。それなのに、なぜこの指標が◎だったのか、私にはよくわからない。具体的に市の方が、予算と人材を投資して、これを達成したのか、基本的にはあまり何もしていないのに自然と目標が達成されたのか。例えば自然と達成されるということであれば、そこまで重要ではなかったということかもしれない。

この基本計画は、お金と時間を投資して、本気で取り組まないと難しいということを考えないと、結局これからの 10 年も、過去の 10 年と同じように何となく計画を作って何となく後で見たら自然と達成していたとなり、これは市独自の力というより、国全体、あるいは県からの取組に従ってやったら、そういう結果になったということになる。

そうなると重点計画の意味があまりない。そのため、検証が不十分だということがあり、例えば◎で達成したものは、具体的にどういう対策・施策で達成したのか。

ここまで

あるいは達成できなかったのであれば、何で達成できなかったのか。大変だと思いますがどこまでできるかわからないが、市もデータあるいは施策を提供しながらそれらを検証したほうがよいと思います。次に 13 ページのアンケートについて、アンケートを取るということはアンケートの結果を利用して何かを考えないといけない。例えば市民の満足度の 13 ページのグラフを見ると、とても満足・やや満足が非常に低いものを取り上げないといけない。例えば「川や海の周辺の整備状況」は合わせて3割しかない。下の「生物多様性」「道路環境の整備」「まちの清潔さ」こういうところが低くなっています。主に先ほどの5つの環境の中で快適環境に近いものとなっています。そうすると結果的に市民が一番満足していない快適環境に対して何か基本計画を作らないといけないというのが私の理解です。市民がこれだけ満足していない分野であるにも関わらずそこはあまりふれず、重点計画を立ててもアンケートと矛盾が生じると思う。市民が非常に満足していないところをどうやってこれから満足度を高めていくかというプロジェクトがほしい。市民の関心度について、市民の満足度プラス関心度が高

いという両方の共通点を探してみると「まちの清潔さ」は満足度が低く、関心度は高い。「まちなみの美しさ」「川や海の周辺の整備状況」も同じである。そうすると満足度が低く、関心度が高い項目については、絶対にやらないといけない・基本計画に入れないといけないものであるとアンケートの結果からみられることではないかと思えます。例えば 16 ページの「移動時には公共交通機関を利用している」は江田島市の場合には電車はそもそもないですよね。電車がなくても、バスも不便となっています。そうすると公共交通機関の供給ができていないという問題なのか、そもそも公共交通機関よりは他の移動手段、そうしたら他の移動手段に対する例えば電気自動車を普及させるならば充電施設を作ってあげたり、無料のところを増やしてあげるなどそういう政策につながると思います。このようにアンケート結果をもう少し活用していただけたらと思います。そこで 22、23 ページの前計画の進捗と課題については、そのあたりを踏まえて整理してもらえたらと思います。次に 24 ページの基本目標について、リサイクルをどう考えるかという問題ですが、リサイクルは必ずしもいいということにはならないということが現状です。資源を大切にすればリサイクルのしるリサイクルを削除したほうがよいと思います。資源を大切にすれば十分だと思います。また、地球環境にやさしいしまについて、カーボンリサイクルというのは CO2 を回収してまた活用するというのは、行われているが必ずしもいいという評価だけではないのでこれもカーボンリサイクルという表現は削除したほうがよいと思います。要するに地球環境にやさしいしまで地球温暖化対策を入れるでよいと思います。次に 25 ページは私の感想ですが、アンケートの結果をみると、事業所において環境に詳しい担当部署がなかったり、専門家がない。そのため、誰が担当するか、なぜ大切かをわかっていない。みんなが環境を考えて行動することも大事ですが、この中に一つ、専門家との協力によって知識を提供する、あるいは教育を行う。私が関わっている中では、中小企業の経営者の方々にリサイクルに関する教育のプログラムもある。これは私みたいな教員が知識を提供するというのもありますが、実際にリサイクルする工場を見学するプログラムがあったり、そういうのを市だけでなく、市と専門家と NPO などそういった活動をされている方と組んでそういうプログラムを作ったりとかより具体的なことを計画されたほうがよいと思います。みんなが環境を考えて行動するという事は、よく使われる言葉ではありますが、これができれば実は環境問題は生じないです。これ以上ないので、大学で授業をしているときにこれを質問したときに学生の答えとして一番多いのが一人ひとりが意識をして行動するという事をよく書いてくるが、しないから環境対策や環境教育などが必要となります。しないからずっと解決しない。するようにさせるためには、何が重要かという専門家とより専門的な知識が必要になってきます。あるいは、具体的な環境に対する行動意識を起こすような主体もいる。会社であれば部署であったり、担当者などそういう人がないとだめだと思います。そういうところにより具体的な踏み込んだ表現のほうがよい。SDGsもそうだが、昔は理念が中心だったが、今は違います。今は数値目標など具体的な評価基準も入れて、これを達成できるか評価するための具体的なものを含んだほうがこれからの時代にあっていると思います。ただ、どこまでできるかは、市がお金と時間をどこまで使うか、優先順位もあると思いますのでそこは実現可能なものを考えていただきたいと思います。

7. その他

8. 閉会